

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送りに理念及び年度目標を唱和することで理念の共有と実践につなげようとしている	年間目標を掲げ毎朝朝礼時に「私たちは出会いを大切に、笑顔あふれるホームづくりをめざし、地域社会に奉仕します」の理念「改善・努力・実行良し」を唱和しそれらを共有して実践につなげている。	経営者の理念をすべての職員が理解し、入居者のその人らしい生活が支援できることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の催しに参加 こちらの催しにも参加していただき交流を深めている 町内→まつり・運動会 施設→防災・救命講習など	町内の行事に参加や施設の行事に地域の方に参加してもらっている。地区の老人会の方が防災・救命講習と一緒に参加やアルミ缶を集めてきてくださり、車椅子をもらった事がある。老人会がホームでカラオケをしている。	今後も地域連携を継続することにより交流を深め地域に密着した事業所であること。また、緊急時の支援や連携に役立てられることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の方の手を借り、朋寿だよりの配布をしていただき、その中で相談なども受けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、御家族、地域の方との意見などを取り入れ、サービスの向上に活かしている	2ヶ月に1回ご家族・地域包括センター・他GHの方々の参加で開催し、意見等をすぐ話し合い、サービスの向上に活かしている。	定期的に家族や地域包括センター・他GHの方々の参加で開催できている。今後も交流と改善のためのサービスの質の向上に活かせることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	できていない	必要に応じて話し合っているが連携が不十分のようである。	保険者との連携は必要不可欠であるため、日常の困りごとや報告等の連携を密に行うことにより、定期的に運営推進会議に参加できるような関係を築く取り組みに期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人研修、施設内・施設外研修にて理解を深めるようにしている。階段のシャッターは拘束ではなく安全を守るものとして捉えて欲しい。先日もシャッター前で転倒したが、階段まで転落せずに終わった。	施設内・外の研修等で理解を深めているが、設備上(階段が急である)の問題もあり、階段の降り口にはソファや時にはシャッターで対応することもある。(階段前で転倒されたときの転落防止になった)	建物の構造上困難な状況も理解できる。今後も保険者と連携を密に行い安全・安心できるケアが出来るように期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修、施設内外にての研修に参加し学び、また定期的に朝礼で話をし、たえず啓発を行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ全員とはいえない 実践者研修受講者、管理者のみであるため、今後は施設内研修に取り入れたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分時間を取り、説明後、理解納得していたき押印をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・エレベーター横へご意見箱を設置 ・運営推進会議での御家族の意見、苦情等の反映 ・家族会での意見を反映させている	意見箱の設置や家族会での意見、運営推進会議での意見・苦情を運営に反映させている。	苦情や意見があることは資質の向上になることと前端的に捉えている。今後も気軽に意見が出る関係作りに期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月の役員会議、職員会議にて意見、提案を聞く機会あり ・職員より匿名での意見を集め(年1回)それらに全て答えを出している	毎月役員会・職員会議等で意見や提案を聞く機会を設けて、現場の意見を運営に反映させている。また年1回職員より匿名での意見も集め、それらのすべてに答えている。	現場の意見を運営に反映できている。今後も現場の意見が反映できるように更なる努力を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給はもちろん、誕生祝い、勤続年数に応じたリフレッシュ休暇と慰労金もあり 研修会、職員会議等にてスキルアップ向上などにつなげるよう努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている 現在ヘルパー2級取得講座に2名通学している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への推進会議への参加 分科会への参加等にて交流するよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接において本人の意向を重視したサービス計画の立案 今までの生活ペースにそえるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接にて入居という流れの中で御家族の意向にも耳を傾け、安心して任せていただけるよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接にて入居後の様子を想定したサービス計画の立案により、必要としている支援を見極めるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭ではないが、家庭らしさ(何かを一緒にする)家族ではないが、家族らしさの中で尊厳を重視し共に生活していくという関係を築くようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調不良時は必ず連絡 面会時は本人も交え日常生活の様子を話し、お願いしたり、相談したりして共に支えあっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会日、面会時間の制限はせず、いつでも来ていただけること ・行事等の案内をして、共に参加していただけるよう支援、また行けるよう支援	面会時間等の制限はしないで、いつでも来ていただけるようになっている。行事等の参加やまた出かけられるよう支援している。	馴染みの人との関りを大切にしている。病気の進行につれ困難なこともあるが、楽しみや生きがい作りに今後も支援を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの座る場所の工夫 野菜作りなど一緒にする 利用者同士ソファにて語らいの時間を共にする等で独立せず関わり合えるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居施設にてあまり例はないが、相談があればフォローしている 他の入居施設に移動時は、今までの経過、日常の様子などは伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン立案時に思いや暮らし方の希望等入れている 困難な場合もあるが、御家族に今までの生活などを聴き取り、本人本位にできるようにしている	今までの生活ぶりを把握し、その方らしい暮らしができるように環境を整え本人の意向に沿うよう努めている。困難な場合は家族の協力等を得て利用者本位に前向きな検討を行っている。	その方らしい暮らしを支えるために今後も家族との連携を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同上		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を送る中で観察しながら現状の把握に努めている ぬり絵、習字、裁縫、料理、菜園作りなど		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて、アセスメント・モニタリングを繰り返しながら、計画の変更、維持に努めている	柔軟な対応が出来るように、家族、関係者と話し合い、できること、出来そうな事の支援に取り組みライフサポートを重視している。	家族、関係者と話し合い、柔軟な対応が出来ている。今後も取り組みに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画と個人記録が一体となった用紙にて、情報の共有ができるようにして、実践状況などがすぐ分かるようにしている為、見直しに活かされている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族の意向で協力病院ではなく今まで通院していたかかりつけ医での受診もあり当施設の協力病院は西崎内科であるが、心療内科もある。歯科は長尾歯科、プライムケア岡山(訪問歯科)もあり、その中で支援している	施設の協力病院だけでなく、病状に即した医療機関との関係ができています。利用者家族の意向を重視し適切な医療が受けられるよう支援している。	病状に即した医療機関との関係ができています。今後も医療機関との連携を期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入社後直ちに入居者を訪問、スタッフの申し送り、夜間の様子の聴取、日中の関わりを密にしており細々な異変に素早く対応できるようにしている。また、介護スタッフへの教育も行い、全員で健康管理に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、サマリーの提出を直に行うこととする。また、担当スタッフのお見舞いを通してなじみの顔が見えて安心できるようにし、入院先の看護師より状況を聞いたり、情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り看護マニュアルを作成し、チームで支援に取り組んで行けるよう研修を行いながら共有しDr.、御家族、NS、スタッフとの看取りについてのムンテラを行っていただき、書面にしたためるようにしている	重度化した場合や終末期については早い段階から家族等と話し合いが出来ている。看取り看護のマニュアルの作成もあり、チームケアできる研修も行っている。施設長、スタッフで泊まりこんで支援して、終末期を支援している。	終末期を安心できる所での希望が多く、当日もターミナルケアが行われていた。全職員の理解で、今後も望む終末期の取り組みに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の救命救急訓練講習をしており、NSによる急変時対応の研修を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、地域の方と共に、防災訓練を行っている	年2回、地域の方にも協力してもらい防災訓練を行なっている。11月には夜を想定しての訓練をする予定がある。全室スプリングクーラー設置。	安全安心した生活ができるように、定期的な訓練により緊急時に混乱しない職員体制作りと地域との協力体制の強化を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守る為の研修、プライバシーの保護の為の研修をしながら日々言葉遣いなどお互いに啓発しながら対応している	プライバシーの保護のための研修や日々の言葉づかいなど、人格を大切にしながらの支援を心がけている。	今後も、人権を尊重し、言葉かけや支援体制を継続できるように職員の資質の向上を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が重度であっても表情の観察や感情の動きで分かるが、スタッフの能力の差もあり、自己決定の前にこちら側が決定してしまう場面もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日をその人らしく、本人の望んでいるペースに合わせた暮らしに心がけ、支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	統一ズボンにシャツ・ブラウスでなく、スカートをはいている方、時には着物を着られる方もおり、(男性は難しいが)毛染め、カット等ヘアスタイルも本人に似合うようお願いし、同じカットでない様支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては入居者の好み、味加減等取入れ、どうしても無理な方は別の炊飯器でごはんを炊き、自分の好みの固さで食べることができたり、別の鍋で好きな味に変えたりもしている	食事は入居者の好きなもの、味加減等を取りいれている。病気や身体状況に応じて味つけを3段階に調整している。職員は入居者が出来ることを把握しており出来ることを一緒に行い食事や片付けが出来るように支援している。	今後も残存能力の活用と生きがいを持つ暮らしの支援体制の継続に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分確保は、目標1500cc前後としている。食事量の低下、ミキサー食などによる体重減少に関しては、Dr. と相談、家族の了解のもと高カロリー栄養食を取り入れるようにしている。また、誤嚥など起きないようにトロメリン、ゼリー等取入れ摂取しやすい形態を作るように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、声掛けのみで行える方、全介助の方と色々ですが、口腔内の観察も行いながらスタッフが付き添って行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居前にリハビリパンツの方でも、日中は失敗する前のトイレ誘導等にて、失敗しなくなることが多い為、布パンツに変えたり、トイレまでに間に合わない方は、布パンツにパットなどで対応したり、一人一人のパターンに合わせている	排泄はとても大切なケアであり、自尊心を傷つけないようさりげなく声かけしてトイレでの排泄を支援している。	入浴・排泄におけるケアは関り方によっては羞恥心・自尊心を傷つけることになるため今後もプライバシーに考慮しながら自立したケアが出来るような支援を期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	浣腸よりも下痢、下痢よりも整腸剤、整腸剤よりも食事、食事よりも運動と、その人に合った排便コントロールに取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本毎日ですが、体調の変化、毎日の入浴に耐えられる体力も必要ですので、何回/Wとかは決めず、入りたいときに入ること心にかけている	入浴は一人ひとりの体調や気分などで個別に対応している。希望があれば、1階にある温泉に入ることも出来る。	業務優先でなく、その人らしい生活のスタイルを支援できるように今後も期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間、就寝時間は決めず、見たいテレビ番組があれば見ていただく。なんとなく眠れない日は、スタッフとリビングで人肌の白湯を飲んだりして、ゆっくりと睡眠できるよう支援している。日中の休息は個々によって違っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助、その後の観察の必要性、薬剤情報を個人記録に入れ、全スタッフが把握できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒー好きな方は喫茶店にお連れしたり、重度の方は玄関前ポーチに出て、外の空気にふれていただくように支援。また家庭菜園をして、施設の外へ出られるよう(屋上もあり)そして収穫の喜びも味わってもらえるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	墓参り、法事、結婚式等の外出は主に御家族によって行われている また普段は行けない遠出の外出は、一人一人とはいかず、各階のスタッフを集めて安全に心がけ、ある程度の人数で出かけられるよう支援している	近頃はインフルエンザの影響で外出は控えているが、車でドライブや、施設内の散歩、屋上に上がって気分転換等を行うことにより生活のメリハリが出来ている。時には家族の方と一緒に外出や近くのうどん屋、喫茶店にでかけることもある。	馴染みの場所に出掛けられる事や、楽しみ生きがいのある支援が出来ることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にスタッフと出かける パン屋さんが施設内外に来られるので、お金を持って買い物する等支援		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話では、自分の欲しいものを家族に伝えたり、四季のあいさつのハガキ等に一言自ら書き入れていただいたりして送れるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の生かし方は、それぞれのユニットにて工夫しており、季節の貼り絵、月々の壁画であったりする	五感の刺激を大切に、季節感を取り入れた共用の空間作りや自宅にいるような雰囲気づくりを心がけている。	建物の制限を克服し、地域の方が入りやすいようなドアの工夫。また季節感を取り入れた共用の空間作りを今後も期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでのイスの配置、ソファの利用、外が眺められるような場所へのイスの配置など限られた空間ではあるが、工夫はなされていると思う		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、御家族の希望のものがあれば、使い慣れたものの持ち込みは可としている。入居時にはなじみの物を何か一つでも良いから安心して過ごせるよう、持ってきて欲しいと話している	自宅から使い慣れた家具や装飾品、写真などを持ち込み馴染みの物の中で安心して生活している。	馴染みの家具や置物等があることにより、精神的な安定につながるため今後も家族と相談しながら、居心地のよい環境づくりを今後も期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所、洗面所の表示、夜間のトイレの場所が分からなくなる方には、ポータブルトイレの設置、自宅前の表札など工夫がなされている		